

---

◇鈴木正洋君

○議長（森元淑雄君） 次に、3番、鈴木正洋君の一般質問を許可いたします。鈴木正洋君、登壇願います。

（3番 鈴木正洋君 登壇）

○3番（鈴木正洋君） 通告に基づき、DX、デジタルトランスフォーメーションの推進について、一般質問をいたします。

デジタル化への投資は、お金のかけ方が大変に難しいものだと思います。やや旧聞に属する話になりますが、平成23年に秋田県観光課が導入した世界カメラは、スマートフォンを活用した先駆的なシステムとして注目されましたが、その3年後にはサービス停止となってしまい、県が投じた約4,000万円の経費は有効に活用されず、終わってしまいました。後づけの議論になってしまいますが、導入する際の技術選定に当たり、もっと慎重な分析がされるべきだったろうと私は思います。

ICT技術は、車や家電製品などと違い、利用する側にそれなりの知識が必要とされます。お任せ式で、簡単に外注して導入できる魔法のつえではありません。

今後、美郷町も取り組んでいくことになるDXには、大きく分けて、法定DXと自主的DXの2つがあります。各自治体が独自に取り組む自主的DXに関しては、役場の全部門が関係します。電算室にいるコンピューターに詳しい人だけに任せておけば済む話ではありません。このような問題意識から、美郷町のDX推進について、3項目の質問をいたします。

1番、デジタル推進計画の策定と、AI、人工知能、RPA、ロボティックプロセスオートメーション技術の早期導入について。

第3次美郷町総合計画では、デジタル推進計画の策定目標を7年度末と設定しています。総務省が進める自治体DX推進計画の期間に合わせたと考えられますが、デジタル推進計画の策定があと3年以上も先と聞くと、もっとスピードアップ出来ないかと感じます。大仙市は、既に計画の策定を済ませ、もうAI、RPA技術を導入しています。AIは、保育所の入所判定に、RPAは、固定資産税や子育て支援の業務などに活用し、省力化につながっているという話を聞いています。人間の仕事でいえば、AIは脳を使って行う判断、RPAは、手を使って行うコンピューター操作の代わりを果たします。効果が出やすいAI、RPA技術に関しては、デジタル推進計画の策定終了を待たずに、前倒しの導入を図ってもよいのではないのでしょうか。

以上のことから、デジタル推進計画の策定の進め方とスケジュール、AI、RPA技術の早期導入について、どのように考えているか、伺います。

2つ目、デジタル人材の育成と登用について。

役場の全部門が関係する自主的DXにおいては、全職員のデジタルスキルの底上げが必要となってきます。今年度、高校1年生の必修科目に情報Ⅰが加わり、全生徒がプログラミングを学ぶことになりました。6年度の大学入学共通テストからは、現行の科目に情報を加えた6教科8科目が国立大学の入学試験に必要となります。これはつまり、あと数年もすれば、社会人なら簡単なプログラムができて当たり前になるということです。今後は、美郷町役場においても、プログラミングを学ぶICT技術研修に力を入れていくべきと考えます。

金沢市では、一般の職員が自ら手を動かして、アプリを開発するそうです。作ったものはプロトタイプであり、実装に当たっては、外部の専門業者の力を借りるそうですが、これぐらいの知識を持った職員でなければ、業者とは対等に渡り合えず、いいカモにされてしまうことだろうと思います。

また、DX推進の司令塔となる専門的人材の確保も重要な課題になってくると考えられます。役場内部からの登用が難しいとなれば、民間企業などとの人事交流により、CIO的な人材を確保することも考えられます。

一般職員のデジタルスキルの向上と専門的デジタル人材の登用に、これから先、どう取り組んでいくのか、お伺いします。

3つ目、オープンデータへの取組について。

デジタル庁のオープンデータ基本指針の中では、取組の方向性として、課題解決型のオープンデータの推進が示されています。美郷町も、各種統計データをウェブサイトで公開していますが、それは、人口や産業などの項目を集計したものであり、課題解決型のデータにはなっていません。先進自治体が公開しているデータの中には、AED設置場所一覧、消火栓設置場所一覧、文化財標柱一覧など、住所が含まれている個別データがあります。これこそが、課題解決型データの代表例であり、アプリ開発などにつながるものです。

東日本大震災のとき、被災地と離れた場所にいるICT技術者が、デジタルボランティアとして、情報の利活用の面から、震災復興に協力しました。美郷町もオープンデータへの取組を進めれば、デジタルボランティアが地域課題の解決に役立つアプリを作ってくれることも考えられます。デジタル人材に住む場所の関係ありません。まちづくりの外部サポーターとして、ほかの地域で暮らしている人たちをも巻き込んでいく力が、オープンデータにはあります。

現在、美郷町が持っているアプリは、「指さしナビ」ぐらいではないでしょうか。

第3次総合計画の中には、防災アプリの活用推進についても触れられていますが、子育て支援、除雪情報などのアプリがある、ほかの自治体と比べて、物足りなさを感じます。外部サポーターの

力を借りたDX推進には、オープンデータへの対応が不可欠であると考えますが、今後の取組について伺います。

以上です。

○議長（森元淑雄君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

はじめに、デジタル推進計画の策定とAI、RPA技術の早期導入についてですが、まず、県内のデジタル推進計画の策定状況です。

令和3年度末までに計画を作成している自治体は5市、令和4年度中に計画の作成を予定している自治体は6市町村で、令和4年度末までに計画が策定されるのは、県内の半数以下の自治体となっております。町では、第3次美郷町総合計画で令和7年度までにデジタル推進計画を策定することとなっておりますが、既に企画財政課が中心となり、各課と連携を図りながら検討を進めており、令和5年度中に、町民に優しいデジタル化を目標に、デジタル推進計画を策定したいと考えておりますので、県内において特に遅れている状況ではないと認識しております。

なお、町では行政サービスの向上を図る一環として、電子申請サービスの利用推進を図るため、本年7月から8月にかけて、行政手続きのオンライン化導入調査を実施し、オンライン化が可能な行政手続きの洗い出しを実施しております。これらに関しては、デジタル推進計画の策定前に県の電子申請サービスと連携し、順次オンライン申請を可能とする予定としております。

町としては、将来的には窓口に来なくても行政手続きが完了するという「行かない窓口」を目標にしたいと考えますが、高齢者が多い当町においては、住民からの使われ方を十分に思慮した進め方が必要です。そのため段階的にデジタル化を推進していくこととし、まずは「書かない窓口」を実現していく考えです。現在、その考え方に沿って申請書サポートシステムの導入を検討しているところで、これは、来庁された方がマイナンバーカードを専用機械に通すと住所・氏名等が記入された申請書がプリントされ、それを窓口に提出して住民票等が交付されるというシステムで、窓口業務も軽減される仕組みとなっております。

また、議員ご提案のAIやRPAについてですが、現在、町では仮称ですが、事務事業最適化計画の策定に向けて作業を進めております。その中で、AIやRPAなどを活用し、大幅に事務の負担軽減につながる業務があるかどうかの洗い出し作業を行っております。その結果を得た後、システム導入に係る初期費用と維持費用、対象事務の分量などを調査・把握し、システム導入による業務効率化の効果等について十分に検討し、対象事務及びその導入の可否を決めてまいりたいと存じ

ます。

次に、デジタル人材の育成と登用についてです。

現在、基幹業務については、秋田県町村電算システム共同事業組合において、輪番制で派遣された県内町村職員が中心となり、システムの共同調達や管理等を行っていることは、議員ご承知のところと見受けられます。派遣職員は、それぞれが研鑽を積み、能力を磨きながら業務に当たっており、現在のところ、試算では単独導入に比べて約45%のシステム導入費及び維持管理費が圧縮されております。一方、美郷町における単独導入システムもありますが、こちらは担当職員が適切な導入費及び維持管理費でシステム利用ができるよう、適宜対応しておりますので、基幹業務並びに町単独導入システムともに、決していいカモにはなっていない認識です。ただし、今後取り組むデジタル推進計画の推進に当たっては、これまで以上にシステムに詳しく、システムの意義などを判断できる人材が求められていくものと考えており、人材育成については、さらなる強化の必要性を認識しております。そのため、これまで国や県などが主催するオンライン研修に毎年5名程度が参加し、先進地事例を学びながら日常業務に役立ててきておりますが、さらにそうした研修を強化していくよう、各般の機会を通じて努めてまいりたいと存じます。

また、専門的人材の確保については、現在のところ、県内市町村でデジタル業務に精通する専門職採用を行っている自治体は、市ではあるものの町村では実例がありませんが、今後のデジタル化の動向を踏まえ、必要業務を見極めた上で、その是非を検討してまいりたいと存じます。まずは、引き続きDXデジタル化に関する各種研修に積極的に参加させ、職員のスキルアップを図りながら、職場におけるデジタル人材育成に努めてまいりたいと存じます。

最後に、オープンデータへの取組についてですが、国のオープンデータ基本指針においては、行政機関が保有する公共データを国民や企業等による二次利用が可能となるオープンデータとして広く活用することは、国民生活の向上、企業活動の活性化等を促し、社会経済全体の発展に大きく寄与するものと位置づけられております。オープンデータの活用が進み、将来的に官民の情報共有が図られる段階では、官民の協働による多様な公共サービスが迅速かつ効果的に提供されることが期待され、町民、団体、企業の活動も連動して、経済の活性化・行政の効率化が促進されると言われております。さらに、自治体が保有する公共データについて、二次利用が可能な形で提供することは、行政の透明性の向上と住民の行政への信頼を高め、住民参加・官民協働を推進することが期待される見込みです。

また、国の地方公共団体オープンデータ推進ガイドラインにおいて、オープンデータ活用による地域の課題解決が加えられ、直面する課題の解決につながる分野や、住民等のニーズが高い分野に

優先的に取り組むことで、既に提供されているアプリの横展開や、他の地方公共団体のデータと組み合わせた利活用が実現するなど、議員ご紹介の外部サポーターの協力による課題解決もその効果の一つとされております。

町では、平成28年12月14日に公布施行された官民データ活用推進基本法に基づき、平成29年より町ホームページに統計データを掲載し、オープンデータとして公開しているところです。

一方、公共データ活用のための環境整備には多くの課題もあります。例えば、データ活用に対するニーズ、二次利用が可能なデータ形式の標準化、情報提供者と利用者との間におけるルールづくり、著作権問題の整理等については、十分な把握と分析、調整が必要となります。また、個人情報保護に配慮した取扱いも、既に国県の統計データで対応しているように、別途の対応が必要となります。こうした課題について、十分検討をした上で、どういうデータがどういう効果を生む可能性があるのかを見通しながら、国のガイドラインを踏まえ二次利用が可能となるオープンデータの公開について、今後、検討してまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（森元淑雄君） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）鈴木正洋君の再質問を許可いたします。

○3番（鈴木正洋君） 美郷町は、情報化投資において、カモになっていないというお言葉をいただきまして、安心したところでございます。

コロナの給付金のときも、迅速な対応ができたということは、私も所管事務調査の際に聞きましたので、大変によかったことだと思っております。今回のDX、スマートフォンの普及が現在のところ、たしか94%というふうに伺っております。これまで、これだけの人がコンピューターを手にして接続できるという世の中はこれまでなかったわけですから、世の中の在り方も大きく変わってくることになるだろうと思います。これまでの情報化投資と今回のDXというのは、規模が違うなというふうに私は捉えております。ですので、これまでは、電算室内にいる人がコンピューターの外部業者とお話しすれば済むようなことだったのが、これから先は、全ての課が外部のコンピューターの業者とお話しするような機会が生じることだろうと、それがDXの大きな特徴ではないかなと思います。

そういった際に、役場全庁的な協力体制といいますか、それぞれ各課が独自で打合せを外部業者と打合せをするだけでなく、そういった各課が行う打合せにはコンピューターに詳しい専門的人材の人が同席するとか、そういうふうな全庁挙げた協力、連携の体制が必要になると、私はそのように考えますが、町長にその点についてお伺いいたします。

○議長（森元淑雄君） 答弁を求めます。町長、自席でお願いします。

○町長（松田知己君） ただいまの再質問にお答えいたします。

議員おっしゃるとおり私も全く同感であります。現にこれまでの行政対応として、各課が導入するシステムについては、各課が担当しております。ただし、それに情報担当する企画財政課も一緒になって話を伺い、システムを適切な導入価格と維持価格で利用させてもらっているという実例があります。今後もそうした展開を意識してまいります。また大きなシステムについては、外部専門家に業務委託をし、その業務委託によって、方向性であったり内容を決ってきている事例もあります。そのように、内容に応じて適切にこれまで対応してきておりますので、今後もその姿勢で臨んでまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（森元淑雄君） 再々質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで3番、鈴木正洋君の一般質問を終わります。

質問途中ですが、ここで10分間休憩します。

（午前10時58分）

---